

2006年4月に弊社が新型のノンアスベストアセチレン容器の
開発・実用性に成功し現在に至っております

容器仕様（一例）※内容は下記参照

型別（内容積 /L）			3.6L	12.5L	24L	41L	
容 器	高 丈	m/m	198	439	694	945	945
	内 径	m/m	185.0	214.8	225.6	252.4	252.4
	外 径	m/m	191.4	220.8	232.0	260.6	260.6
	胴肉厚	m/m	2.6	3.0	3.2	4.0	4.0
	天地鏡板肉厚	m/m	2.6	3.0	3.2	4.0	4.0
	重 量	kg	3.60	9.15	15.4	26.5	26.5
充 填 量	マス充填量	kg	0.95	3.34	6.3	10.9	10.9
	溶剤充填量（アセトン）	kg	1.19	4.28	8.2	14.0	17.0(DMF)
	バルブ重量	kg	0.73	0.73	0.73	0.73	0.73
	飽和ガス	kg	0.04	0.14	0.3	0.5	0.8
	重 量（T.W.）	kg	6.51	17.6	30.9	52.6	56.0
	アセチレンガス充填量	kg	0.6	2.2	4.2	7.2	7.6

関東アセチレン工業株式会社

〒377-0002 群馬県渋川市中村1110
TEL.0279-22-3102 FAX.0279-22-3104
<http://www.kak.jp/>
info@kak.jp

DISSOLVED Acetylene Cylinder

溶解アセチレン容器



関東アセチレン工業株式会社

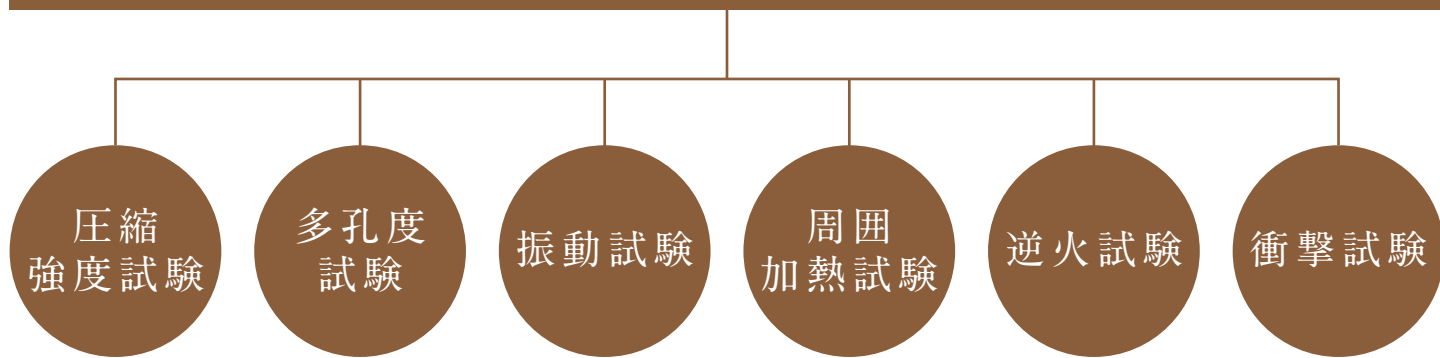
www.kak.jp



当社の多孔質物は高多孔度で軽量な特徴も兼ね備えた優秀な製品です

溶解アセチレン容器多孔質物

高圧ガス保安協会の溶解アセチレン容器多孔質物性能試験規程



当社製造の容器は上記の性能試験に合格した認定容器です

DISSOLVED Acetylene Cylinder



3.6ℓ型

12.5ℓ型

24ℓ型

41ℓ型

容器の構造

- ・ 容器シェル
- ・ 多孔質物
- ・ バルブ
- ・ キャップ
- ・ 可溶合金栓
- ・ 溶剤
(アセトン又はDMF) で構成されています。

バルブ

アセチレンバルブは、JIS B 8244溶解アセチレン容器弁に規定されています。
バルブには105±5℃で作動する可溶合金栓が装着されたものが一般的です。

安全弁

単体型安全弁は【KHK S 0125】溶解アセチレン容器の105±5℃で作動する可溶合金栓が装着されていて、安全弁に関する基準（高圧ガス保安協会）に規定されています。火災などにより容器が加熱され内圧が上昇した場合、可溶合金栓が融解して内圧で吹き飛ばされ容器外にアセチレンを放出し容器の破裂を防ぐ目的を果たします。容器の内部圧力は、温度により著しく変化しますが多孔質物自体が熱に対して絶縁体でありますので、その変化は非常に緩慢で長時間かけて徐々に変化します。

溶剤アセトン

特有な臭いを持ち、揮発性引火性のある液体。
1kgあたりアセチレン最大充填量0.55kg

溶剤DMF

無色で水やほとんどの有機溶媒と混合する液体。
1kgあたりアセチレン最大充填量0.50kg

高圧ガス保安協会の溶解アセチレン容器多孔質物性能試験規程

- ①圧縮強度試験 多孔質物の圧縮強度が社内規定範囲内であることを確認する。
- ②多孔度試験 多孔度が90～92%であることを確認する。
- ③振動試験 容器を75mm以上の高さから鉄塊の上に垂直の姿勢で1000回以上落下させた後、多孔質物の異常の有無を確認する。
- ④周囲加熱試験 容器を鋼板製円筒の中で10分間、650℃以上に加熱し、24時間放置してからアセチレンの分解状況を確認する。
- ⑤逆火試験 逆火管を用い容器が逆火した場合の安全性を確認する。
- ⑥衝撃試験 含水爆薬を規定量容器胴部にて爆発させ、衝撃による多孔質物異常の有無を確認する。

取扱注意事項

- 容器の使用は、高圧ガス保安法及び関係法令に従ってください。
- 容器内には可燃性ガス及び溶剤が入っていますので、バルブは閉めた状態で保管してください。